

会 議 録

会議の名称		平成 2 7 年度第 9 回守谷市行政改革推進委員会		
開催日時		平成 2 7 年 1 2 月 2 1 日（月） 開会： 1 4 時 3 0 分 閉会： 1 6 時 3 0 分		
開催場所		守谷市役所 庁議室		
事務局（担当課）		総務部企画課		
出席者	委 員	川西会長，佐々木副会長，福田委員，吉田委員 計 4 人		
	その他			
	市職員	会田市長，須賀総務部長，古谷総務部次長兼企画課長， 前川課長補佐，石神企画員 計 5 人		
公開・非公開 の状況		☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部公開	傍聴者数	0 人
公開不可の場合 はその理由				
会 議 次 第		1 開 会 2 会長挨拶 3 市長挨拶 4 議事 (1) 第七次守谷市行政改革大綱の諮問について (2) 平成 2 7 年度守谷市行政評価外部評価報告書の提出について (3) 意見交換 (4) その他 5 閉 会		

確 定 年 月 日	会 議 録 署 名
平成 2 7 年 1 2 月 2 8 日	会 長 川 西 憲 二

審 議 経 過

1 開 会

2 会長挨拶

この会議も今回で9回目を迎えます。前年度と同じように、委員会の回数を増やしていただき、ありがとうございました。

委員会の中で、私たちの言いっ放しになっていると懸念を感じることがありますので、市の職員の方々に積極的で前向きで建設的な反論をしていただくよう、市長から御指導いただければありがたく思います。言い訳ではなく、しっかりと私たちに障害を認識させるような御意見をいただいた上で、建設的な提言をさせていただきたいと考えています。

この委員会が意味のあるものになるように、御協力のほどよろしくお願いいたします。

3 市長挨拶

9回も議論を重ねていただいた中で、色々な意見をお聞きになっていると思います。確かに、職員からは受け身な意見しか出ていないのかもしれませんが、言い訳が多いのかもしれませんが。こうすれば良いということがなかなか言い出せないのです。

市の財政も硬直化し、経常経費が上がってきています。何かをやめないと新しいことはできないと常々言っていますが、なかなか思い切ってやめることができないのが現状です。こういった行政改革推進委員会の中などで、やめることを提言していただくことも必要かと考えています。これは、議会にも申し上げていることです。そうした提言をいただくことで、職員としても動きやすい部分がありますので、今後とも御指導いただくようお願い申し上げます。

川西会長： 本日の議事につきましては、これまでどおり、皆様からの異議がない限り、氏名を付したままで、意見の内容を議事録といたします。

4 議 事

(1) 第七次守谷市行政改革大綱の諮問について

事 務 局： それでは、第七次守谷市行政改革大綱について諮問を行います。

市長から会長に諮問書をお渡しします。

【市長から諮問書「第七次守谷市行政改革大綱について」を会長へ提出】

(2) 平成27年度守谷市行政評価外部評価報告書の提出について

事 務 局： まず、川西会長から、市長へ報告書の提出をお願いします。

【川西会長から「平成27年度守谷市行政評価外部評価結果報告書」を市長へ提出】

事務局： それでは、川西会長から評価結果の報告をお願いいたします。

川西会長： 今年度も前年度に引き続き、評価の対象を個別事務事業といたしました。その事務事業で、実際に効果が上がっているのか、特に市民に役立っているのかとの視点から評価することにより、行政改革を推進するための一助としていただきたいという趣旨で実施しました。

対象は、第二次守谷市総合計画の中で、過去2年に外部評価を行っておらず、かつ市民に身近な点を重視し、「生活環境の保全」、「循環型社会の形成」、「緑を生かした景観の形成」の3施策内の26事務事業としました。

評価に当たっては、施策、基本事業、事務事業の各3段階の評価表、市民アンケート、各種統計データ等を確認しました。また、主管課長等からヒアリングを行い、不明な点や疑問点については、再ヒアリングを実施しました。そして、施策への貢献度、事業の必要度について委員全員で採点を行った上で、最終の評価をいたしました。これは、報告書の「個別事務事業評価」に詳しく記載しています。

また、当委員会は、昨年度の報告書の提言とこれに前向きに答えていただいた守谷市の方針についてのフォローアップも実施しました。そして、このフォローアップや最近2箇年の行政評価を通じて、各委員が思い、議論をした守谷市全般に関する認識と提言とを「総合的意見」として記載しました。この「総合的意見」の部分は、特に各委員の熱い情熱が込められた部分でありますので、この貴重な場をお借りして音読させていただきます。

（報告書の「総合的意見」の部分を音読）

市長及びお歴々の守谷市幹部の皆様におかれましては、これを市民目線の率直な指摘と受け止めていただき、今後の行政にいささかでも役立っていただければ幸甚です。

（３）意見交換

川西会長： それでは、以上の報告につきまして、市長から御質問などございましたら承りたいと思います。委員の方々から補足や追加の御意見がありましたらお願いいたします。

会田市長： 今回いただいた御意見はもっともなものばかりで、思うようにいっていないことが、ここに集約されていると感じています。これができれば、今よりもお金が余るかもしれませんし、もっと守谷市の職員がお役所的でなくなるのではないかと感じております。

市民目線ということは、常日頃から言っていることです。今年は、新

しく入庁した職員たちと、これまで行ってきた市長とのお昼の食事会に代えて、初めて、部長を交えてお酒を飲みながらの意見交換会を行いました。そのときにも、市民の立場で考え、どうしたらできるのかを考えるようにと伝えました。

市の補助金等審議会も活用していますが、団体の既得権などもあってなかなか事業の廃止も難しい状況です。外部評価等で行政改革推進委員会の皆様にこのように言われているということは、市にとっても判断する理由付けになりますので、使わせていただくようにしたいと思います。

守谷市は財政力指数が高く、他市町村からは余裕があると思われがちですが、実際は、経常経費が増加傾向にあり、決して楽な状況ではありません。今後実施していくマイナンバー関係もお金が掛かります。

新聞記事でありましたが、マイナンバーを活用して、コンビニエンスストアでの住民票等の交付に対応する市町村は190程度とのことです。全市町村で実施しないと、マイナンバーを導入するメリットをいかしきれないと感じています。

川西会長： 190という数字は、いかにも少ないと感じます。導入によって、どのくらいの経費が削減できるかといった一定の目標値があって然るべきだと思いますが、それが明確になっていません。

会田市長： 国でも窓口の民間委託等を推進していますが、現状の法律では、全ての業務を民間に委託することができません。こうした規制を緩和しても良いと思います。次年度から、図書館を外部委託しますが、その方が使いやすくなるのではと期待しています。

川西会長： 使いやすくなっているかの検証をお願いいたします。

会田市長： 施設の民間委託を推進すると、利用者から反対されることが多いのですが、実際に委託を開始すると、なかなか不満の意見は挙がってきません。そのため、これまでは検証が手薄だったのかもしれませんが。

川西会長： 委託を受けた業者は、どうしても市民の方を見るのではなく、市役所の方を見ているように感じます。これは、ビジネスとして当たり前起こることだと思いますが、その点を補正し直していくのが市の役目です。民間委託した業務がうまくいっているのかを検証し、業者を指導してってください。

佐々木副会長： スピード感が大切です。年をまたがってビジョンを持つ計画も重要だとは思いますが、事業になったときに年をまたがって結果を出すということは、単年度会計という観点から見ても、無理があると思います。やはり、その事業年度で、ある程度の結果を出していくことが重要なのです。年をまたがったときには、中間目標を設定し、達成状況を管理しないといけません。年をまたがった目標設定は、あまり好ましくありません。

また、いつまでに何をやるかという期限の設定とゴールが明確に

なっていないように感じます。民間企業では、きちんと経営ができないと倒産してしまうので、単年度で結果を出すことを実践してきました。役所は倒産しないといった安易な考え方を持たれては困ると厳しい意見を申し上げてきましたが、この点については、職員の意識改革が必要だと感じています。

古谷次長： いつまでに何をやるかといった進捗管理が足りないのだと思います。

会田市長： 市には民間企業のような売上げがないので、これで良かったということがなかなか出てきませんが、市民の皆様から「ありがとう」や「お陰様」と言われることが売上げに当たると思いますし、それしかないのです。色々な場所でこういう風に言っていただけることが、我々にとっては嬉しいことであり、売上げと呼べるものなのかもしれません。

佐々木副会長： 業績評価を報告していただいた際に、書類上の文書は、職員目線での内容になっていましたが、説明を聞いていると、その根拠として市民からこのような反応をいただいているという話がありました。市民の反応を把握しようとしていたのは良いことですが、書類上でそれが見えないとなると、それを本当に必要なことだと認識していなかったのかと思ってしまいます。やはり、市民の反応をもっと定期的、組織的に集める方法を検討していただき、業績評価の中でもそれが見えるようにしていただきたいと、そのときに話をしました。

会田市長： 大変重要なことだと思います。事業評価の中で、市民の反応や声といった内容を組み込めるよう対応していきます。

川西会長： 学校のボランティアに参加していますが、ボランティアも含めた全体の会議が年2回開催されます。その会議には、市の担当職員の方も来られますが、義務的に参加しているという感じにしか映りません。このような市民を交えた会議に出た場合は、市民の受け止め方を必ず報告しなさいという指導をしてください。市民の意見を聞く機会がたくさんあります。そういった機会をいかす姿勢を植え付けてください。

会田市長： このことは、地域担当職員にもよく伝える必要があります。地域の会議で出た話を共有しなくてはなりません。

古谷次長： 意識の改革です。ただその場にいるのではなく、聴こうとする姿勢が重要になってきます。

福田委員： 講演で地方に行くことがあります。地方は人がどんどん減ってきて、切実で必死という感じが伝わってきます。また最近、企業と話をすると、どういう存在でありたいか、どういう活動団体でありたいかとよく聞かれるのですが、市役所の方にも、どういう職員や組織でありたいのかという意識をもっとお聞きしたいと思います。

会田市長： その点も重要なことです。これからは、ある程度オールマイティな職員と専門的な職員とが必要になると感じています。守谷には色々な方に

全国からお越しいただいていますので、今後は専門知識を持った職員が必要になってくるのかもしれませんが。

吉田委員： 常々、公の仕事は何かと考えています。最近はどの自治体でもお金がないので、民間活力の導入や市民協働を推進していますが、絶対に公務員でないとできない仕事は何なのかという意識が求められています。公務員の基本的な資質は、実際に事業を行うことよりも、全体的なプランニングやコーディネートをする力、指導する力をどれだけ持っているかだと考えています。多くの方が、与えられた枠の中で仕事を粛々とやっていますが、どういう志を持って市を動かしたいのか、そのためにどういう調整をして周りを巻き込むかを考えなければいけません。

周りにお任せして役所の事務事業が減れば良いという国の方向性もありますが、役所が譲れない部分、直営でなくてはならない部分、コンサルタント任せではなく自分たちで考えなければならぬものを見つめてください。

公務員としての在り方や役所の在り方を考えると、市民の活用といった風潮に流されてしまっていて、大事なことが置き忘れられてしまうのではないかと懸念しています。

このことを職員全員に行き渡らせ、考えさせることで、初めて誇りを持った仕事ができると思います。今、その誇りは希薄になりつつあると感じます。

会田市長： 地方公務員は市民から突き上げられることを怖がり、引いている部分があるのかもしれませんが。

ずっと言い続けている協働のまちづくりには、市役所にしかできないことは市役所でやる、民間の人に任せられる部分は任せる、官民で一緒にできる部分は一緒にやるという3つの区分けがあると考えます。この区分けがきちんとできれば、住んでいる人にも、自分たちでこのまちをつくっていかうという意識が芽生えます。まち全体のプランニングなどは市でやるしかありませんが、職員にとっても、我々は何をするのかと考えることが、自分たちの仕事に誇りを持つことにつながると思いますので、一朝一夕ではいきませんが、植え付けていかなければと思います。

佐々木副会長： 人材育成は非常に重要だと思います。市の中で育成できる部分と外部で研修を行った方が良い部分とがありますが、外部の研修プログラムなどは活用されていますか。

会田市長： 活用しています。次年度は、国との人事交流も予定しています。外部での研修は、本人にとっても勉強になると思います。

川西会長： 勉強のために来たいと言われる市になっていただきたいです。

佐々木副会長： 色々なものを利用して、人材を育てていってください。

福田委員： 「ようこそ守谷へ」のイベントの雰囲気が好きです。ハーフマラソンもそうですが、市役所の方と住民の方が一緒になってイベントを作り、

楽しそうにしているところに魅力を感じます。来た人みんなが喜んでいるのです。

会田市長： 20年位前に、ニューヨークの隣の小さな町で、こういったイベントを行っている話を耳にしました。その話をきっかけにしてイベントを始め、それからずっと続いています。今年は、参加が2回目という人もいました。前は小さかった子どもも、すっかり大きくなったと話されていました。

福田委員： そういった暖かみが全てだと感じます。

吉田委員： 自治体の適正規模ということがあります。守谷市が評価されているのは、コンパクトさの部分です。コンパクトさにはメリット、デメリットの両面がありますが、このコンパクトさをどう維持していくのかが重要になってきます。大きければ良いということではなく、きちんと行政が舵取りをした上で、一番良い市の大きさであることが重要です。よそから住民を呼び込む上でも大事なポイントになると感じています。

会田市長： 国でもコンパクトシティという話が出ますが、面積的には守谷市などはモデルになるかもしれません。これから重要なことは、若者に住んでもらったり、ここで育った子どもたちが進学等で出ていっても再び戻って来たりすることだと思います。小さい頃に守谷に越して来た子どもたちは、ここが「ふるさと」なのです。そういった子どもたちにとって、ここが「ふるさと」と呼べるまちでなければいけないのです。風景などに「ふるさと」としての良い思い出があって、また戻って来たいと思えるようにしなければなりません。そのためにどうしたら良いかを今考えているところです。

福田委員： 大学生に来てもらうのなら、魅力がある面白いまちにではなくてはなりません。高槻市のジャズストリートのように、おしゃれで楽しいイベントを考えてください。

古谷次長： 大学生に考えてもらうのも良いかもしれません。

川西会長： 賛成です。

会田市長： 役所が企画するのではなく、こういったことがやりたいと相談に来たときに、どのような後押しができるのかを考える方が、良いイベントができるのかもしれません。イベントを開催するには、守谷駅の西口広場や東口の市有地などを活用しても良いかもしれません。

古谷次長： ちょっとしたスペースを活用した方が、面白いイベントができるかもしれません。

福田委員： お子さん連れ向けのイベントなど、徹底的に対象を絞るのも良いかもしれません。

古谷次長： 市役所は企画するよりも支援に回った方が良いこともあります。

会田市長： 市役所が表に出ると堅苦しくなることもありますので、それも一考だと感じます。

【市長退室】

議事（１）の関連事項として第七次守谷市行政改革大綱（案）についての補足説明

【委員会での指摘を踏まえ、以前に示した大綱（案）から修正した箇所等について事務局から説明】

川西会長： 推進項目「人材育成と組織マネジメントの強化」の文中表現について、論理がぼやけているように感じます。市役所が模範となって、それらを市民や事業者に普及させ、横展開させていきたいという趣旨だと思いますが、育児休業制度といった言葉が唐突に出てくるので、つながりが悪い印象を受けました。趣旨は良く分かるので、その趣旨が伝わるように、文章を工夫してください。

佐々木副会長： 職員の働く意欲の向上という言葉はどこかに入れられませんか。

事務局： 検討して対応いたします。

佐々木副会長： 推進項目「効率的な行政サービスの提供」の中にある実施事業について、最初に見たときから違和感があります。クラウド化の拡大やマイナンバー制度の活用は手段であって、柱にはならないと感じます。特に、マイナンバーはまだ制度が具体化しておらず、５年後には柱になる可能性があるかもしれませんが、そうであったとしても、あくまで道具の話であり、ここに取り上げる意義があるのかと疑問に思います。クラウド化の拡大も手段でしかありません。実施して何が起こるのですか。

事務局： 費用対効果の面でメリットがあります。また、セキュリティが高まることも考えられます。

佐々木副会長： クラウド化によって、費用対効果が良くなるとは思ってはいません。国が推進していることもあるので、この事業をやめろとは言いませんが、効率化という推進項目が果たして前進するのでしょうか。本当の効果や成果を見たときに、市にとって行政サービスが効率化したことで、市民にとっても良くなったと言えますか。例えば、市民が相談に来たときの応答時間の短縮などです。何か市民にとってサービスが良くなるという事業があるのならば、それがやらなければいけない実施項目だと思います。現実には、市民サービスが良くなったと私たちが実感できる実施項目に代えていただきたいです。視点が少し違うような気がします。

吉田委員： 役所の立場から見ると、マイナンバーは推進しなければならない事項です。推進するのであれば、柱にしないと隠れてしまうのです。サービスの提供と推進項目に記載がありますが、何を提供するかはうたっていません。この項目の立て方自体が手段を意味するものであり、効率とい

う言葉自体が手段を意味しています。手段ということに言及していくと、この推進項目全体を取り除くことになってしまいます。

佐々木副会長： マイナンバーを導入したら、どう効率化されるのかを説明してください。説明ができないのであれば、それは違うということです。

事務局： マイナンバーの独自利用を進めていきたいということが、マイナンバー制度の活用の趣旨です。

佐々木副会長： そうであるなら、そういう制度を導入するということが実施項目でないとおかしいのです。

吉田委員： 活用は役所の視点であって、活用によって市民の手続きを含めた利便性を向上させるといった言い方の方が分かりやすいと思います。役所の中だけの効率化でなく、住民にとっての効率化ではないでしょうか。

事務局： 行政改革の場合は、役所が対象になることが多いと感じます。

佐々木副会長： 内部の資料ならそれでも良いと思いますが、これを市民に説明するのなら、守谷市が勝手に何かやっているという評価をもらうより、我々にとって役立つことをやってくれていると感じてもらえるような資料を作成し説明することが、価値のある仕事と言えます。

川西会長： 両方重要だと思います。例えば、マイナンバー制度の活用による業務の効率化と市民の利便性の向上として目標にされたらいかがですか。業務の効率化や市民にとっての利便性の向上ができないと、活用に意味がないという部分まで踏み込んでいただきたいです。

事務局： 分かりました。名称自体を検討します。

川西会長： これだとマイナンバーは良い制度だと言っているだけで終わってしまうので、市民にとって何が良いのかを示し、マイナンバーの導入によって、業務がスムーズにいくようになり、職員数の削減につながったというような好印象が持てる記載にしてください。

佐々木副会長： 行政改革は市の内部のためだけではありません。市のためと言うならば、主体は市の職員でなく市民になるのです。行政改革が市民に役立っているのだということを理解してもらうことは非常に重要です。意識改革だと思ってください。良い仕事をしていることを皆に分かってもらうことで、自分の仕事が市民の役に立っていることを実感し、それが仕事に誇りを持ってもらうことにもつながります。

事務局： 事業の目標は代わりませんが、今の意見を受けて、全体的に見直したいと思います。

吉田委員： 実施事業を見て、地域包括ケアシステムの推進など、一目で内容が分かるものもありますが、例えば、総合計画の実施計画の機能強化や中長期経営計画の策定と言われても、機能強化や計画策定によって何をするのかが示されないと分かりづらいです。

川西会長： 業務の効率化や市民にとって何か良いことあるといった記載の方が分かりやすいです。

事務局： 実施事業ごとの計画表の中で、期待する効果を記載する欄を設けますので、その欄でどれだけ説明できるかだと思います。

川西会長： 目的の部分が分かるようにしてください。

佐々木副会長： 行政改革の資料を作る意味の一つは、職員や市民にその計画を共有してもらい、自分の役割を理解してもらうことです。そうすると、その人たちが理解できる言葉になっていないと、せっかく作っても意味がありません。みんなが理解しやすい言葉にしてほしいです。そのときに、文章を長くしないで、簡潔に皆が中身を理解できるような表現にしてください。

吉田委員： 役所の文章は、横文字を使い注釈を付ける傾向があります。文字として頭に入っても、内容が読み飛ばされ、分かったつもりで終わってしまいます。注釈を使わないで、文脈に溶け込ますような表現を考えてください。市民を意識したら必要なことですから、工夫してください。

佐々木副会長： 実施計画に掲載されているフォーマットで、進行を管理していくのですか。

事務局： 進行管理は、フォーマットを別に用意します。ただ、新たにフォーマットを作るというよりは、実施計画のフォーマットに付け足す形で管理し、効率的に作業が行えるようにします。ここまでに何をやるのかという目標を立てて、それが実現したかどうか、何が変わったかが分かるようなフォーマットに替えていきます。

もし、他に御意見があるようでしたら、2月29日に答申をいただきたいので、1月末を目途にお願いいたします。本日いただいた意見は、内部で検討した上で、対応をお示しします。

川西会長： 進行管理のフォーマットは、いつ頃の協議を予定していますか。

事務局： 進行管理表は、大綱に添付しませんので、協議する時間的余裕はあります。次年度の上半期分の進行状況を報告するのが10月になると思いますので、平成28年度の委員会が始まってからでも、十分に間に合います。

（４）その他

■今後のスケジュール等について

事務局： 次回が最終の10回目となります。行政改革大綱についての答申と外部評価に対する市の方針の説明を予定しています。それまでは、メールのやり取り等で大綱の精度を上げていきたいと考えていますので、御協力をよろしくお願いいたします。

■外部評価報告書の提言を受けた市の方針について

川西会長： 昨年度、市の方針を書いていたときに、私たちの言っていることを御理解いただかないままに書いたように思える点が少しありました。

報告書の内容で不明な点があれば、メールで結構ですので、御意見をまとめる過程で御照会いただき、私たちの意見を求めるなりして、疑問点を解決し、市の方針をまとめてください。昨年度は、職員の人工数についての記載などがそうでした。

事務局： 人工数については、1月から一部の課で試行して、職員に負担がかからないか、正確なものが得られるかを検証したいと考えています。

佐々木副会長： 人工数を実際に把握するときには、実働以外の部分も考慮し、内容を理解してもらった上で取り組んでください。人工数が作為的なものにならないように、職務の役割等も考慮して対応してください。

吉田委員： 作為的に人工数を計上するようでは意味がありませんので、実態に沿った運用を心掛けてください。

川西会長： 最近のコールセンターなどでは、電話とコンピューターとを合体させたシステムが比較的安価で活用され、その人の離席状況や電話の内容などを把握することができます。それがこのまま行政に当てはまるとは思いませんが、御参考としてください。色々な方法がありますので、あまり労力をかけずに工夫して進めてください。

5 閉 会